

(様式2)

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立みなら特別支援学校(本校・松山城北分校)

51

評価実施日		令和 6年 2月 21日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	伊藤 剛志	社会福祉法人 馴鹿(となかい) トナカイ福祉交流館あい 施設長	学校評議員
	池川 良徳	東温市見奈良区長	学校評議員
	恒岡 夕貴子	有限会社 松山サービス ジョブコーチ	学校評議員
	前園 俊恵	法蓮寺住職	学校評議員
	永井 裕二	社会福祉法人 松山手をつなぐ育成会 生活介護事業所 つくし園 管理者	学校評議員
	日野林 茜子	P T A副会長	
	八田 美由紀	P T A副会長	
	門屋 利和	P T A会長(分校)	
	阿部 和子	P T A副会長(分校)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>○学習環境について 電子黒板に非常に驚いた。地域の小学校等はまだそのような設備は設置されている様子はないが、県立学校はすべてそのような設備が設置されているのか。授業を参観して、子どもたちの「やりたい」という気持ちがよく表れているのを感じた。今後、広がっていくとよい設備だと思う。施設が充実しているのは子どもたちにとってよいことだ。(本校)</p> <p>○保護者連絡システムについて 情報を共有できるシステムは便利である。教職員の時間の使い方も効果的だろう。防災の場面でも上手く生かされるのではないかと思うので活用してほしい。(本校)</p> <p>○キャリア教育について 小学部の職業が分からない段階から、いろいろな身近な仕事から地域の人や保護者との関わりができていて、いろいろな人から協力を得ながらできていることはすばらしい。(本校)</p> <p>○進路について 本校で実施している事業所等説明会をきっかけに進路が決まった経験から、可能な限り続けてほしい。(本校・分校)</p> <p>○学校評価全体を見て 学校評価に「A」が多かった。アフターコロナで、行事が整理され、コロナ禍で精選されたことにより、効果的になったこともあるだろう。(本校・分校) アンケート調査から、ほとんどの生徒が楽しく学校に来ることができているようだが、不登校生や退学生はどのくらいいるのか。始業時間などは柔軟に対応しているのか。(本校)</p> <p>○コロナ禍を経て コロナ禍とコロナ禍後で、子どもたちに変化はあるか。授業参観からは、伸び伸びした様子を感じた。廊下の作品も素晴らしかった。それを伸ばしていつてほしい。(本校)</p> <p>○人材確保について 講師を募集していた時期があったが、現在はどうなっているか。(本校) 人材確保はどの分野においても大変である。教員の仕事は特殊である。だからこそ、長く続けてほしい。異動もあるだろうが、ベテランの教員を長くおき、新しい教員を育ててほしい。(本校・分校)</p> <p>○教職員の働き方について 休憩時間がなかなか取れないのは分かるが、休憩時間は取ってあげてほしい。(本校・分校)</p>	<p>○タブレット端末と電子黒板をつなぐことで、タブレット端末の画面を電子黒板に映し出すことができる。学習支援アプリを使用することで生徒の意見等を映し出したり、教材を共有しやすくなったりしている。(本校)</p> <p>○既読確認ができたり、お便りを送ったりできる。今後も、P T Aの方と相談しながら活用していきたい。(本校)</p> <p>○小学部児童も楽しんでやっており、実際にやってみることで楽しかったという声がある。(本校)</p> <p>○P T Aや父母の会と連携をして、施設・事業所等合同説明会をより充実させ、以前のように全保護者対象にしたい。(本校・分校)</p> <p>○コロナ禍にI C Tを積極的に取り入れる等、いろいろな場面で再考する機会となった。どの学部にも不登校生はいる。担任が中心となって、保護者と連絡・連携を取っている。一日学校で過ごすことが難しい児童生徒の場合は、数時間からの出席を誘い、登校へつなげている。また、1時間目の対応は柔軟に行っている。(本校)</p> <p>○コロナ禍のときも工夫をしているいろいろなことを実施してきたが、コロナ禍のときと比べ、子どもたちの伸び伸びさが違っている。感染を心配しながら関わっていた教職員の立場からも違う。濃厚接触者を追跡する必要がなくなったこともある。(本校)</p> <p>○教員の病休や産前産後休暇等の他に、本校は講師の割合が多く、年度末に退職する教員も多かった。現在のところ、来年度の見込みは立ってきている状況である。(本校)</p> <p>○給食支援があるため、なかなか昼休憩が取れないが、児童生徒下校後の20分間は会議等を入れず、休憩を取ってもらえるようにしている。(本校)</p>